様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年　５月　１７日現在

研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2006～2009
課題番号：１８７９１６５７
研究課題名（和文）　第１子妊娠期における夫が認知する妻へのサポートと妻の満足度との関連
研究課題名（英文）　Analysis of husbands' awareness of the role of the husband's support in satisfying the wife during the pregnancy of the first child.

研究代表者
中島　久美子　（NAKAJIMA　KUMIKO）
群馬大学・医学部・助教
研究者番号：５０３３４１０７

研究成果の概要（和文）：妊娠各期の妻が満足と感じる夫の関わりにおける夫婦の認識において差異及び共通点が認められた。また、「夫婦が認識する妊娠期の妻への夫の関わり尺度」を作成し、妊娠各期における夫婦の認識において因子構造の違いが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The difference and commonality has been fund in couples' awareness of the husband's support in satisfying the wife's feelings during the each stages of pregnancy. "A scale of couple's awareness of the husband's support toward a pregnant wife." has been developed. The analysis suggests difference of structure of the couples awareness at the each pregnancy phase.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	0	0	0
２００７年度	500,000	0	500,000
２００８年度	500,000	150,000	650,000
２００９年度	400,000	120,000	520,000
年度			
総　計	1,400,000	270,000	1,670,000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学
キーワード：妊婦、夫のサポート、満足度、夫婦の関係性、尺度

１．研究開始当初の背景

妊娠期の女性は、身体の変化を受容し、心理・社会的には、母親になり子どもを受容する準備と実践を行う課題に直面するために、不安やストレスを感じ易く、他者による支援の必要性が高まる。特に夫の関わりが妊婦にとって効果があると報告されており、女性が妊娠期の課題を達成するには、夫婦でこの課題に取り組む必要があると考える。支援とは、受けて側の認識により満足であると感じられることにより支援の効果が期待される。しかし、妻の期待に反して、夫の行動や態度が

妻にとって満足とは感じられない状況も考えられる。これは、支援を受ける側の妻と、支援を与える側の夫との認識に相違点があるためと考えられる。

先行研究において、妊婦が満足と感じる夫の行為を抽出した結果、その夫の行為は妊娠各期を通して変化することが明らかである。この妊娠各期の縦断的な調査結果を用いて、平成 16－17 年度科学研究費補助金（若手研究Ｂ）において「妊娠過程において妊婦が満足した夫の行為尺度の信頼性・妥当性に関する研究」に関する研究を行った。結果、妊娠各期の夫の行為を妊婦の視点で測定できる「妊婦が認知する夫の行為満足尺度」を作成した。

以上のことから、今回は妊娠期の夫婦に対して面接調査を行い、夫婦が認識する妻への夫の関わりを抽出した結果を用いて、夫婦が認識する妻への夫の関わり尺度を作成する。夫婦各々に作成した質問紙を用いて、妊娠期の夫が認識する妻への夫の関わりの実態と妻の満足度との関連を明らかにし、妊娠各期に効果的な妻への夫の関わりを提示するための資料を提供したいと考える。

２．研究の目的

（１）　妊娠期の夫婦に対して面接調査を行い、妻が満足と感じる夫の関わりにおける夫婦の認識について明らかにする。

（２）　妊娠期の妻が満足と感じる夫の関わりにおける夫婦の認識について測定するために、新たに夫婦の認識する妻への夫の関わり尺度を作成する。

３．研究の方法

（１）「夫婦の面接調査による妻が満足と感じる夫の関わりの抽出」

①　方法

対象は妊婦健診に来院した初産の夫婦８組。調査期間は 2007 年 8 月～4 月。調査は群馬大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。倫理的配慮として、研究目的と内容、匿名性、途中辞退が可能なことを文書と口頭で説明し同意を得た。調査内容は、属性及び妊婦が満足と感じる夫の行為における妻と夫の認識で、面接は夫婦個別で妊娠初期・中期・末期において縦断的に行った。データは半構成的面接法により収集し、分析はベレルソンの内容分析法を参考に行った。

②　結果

属性：妻の平均年齢 29.6 歳、夫 31.1 歳。結婚期間は半年～４年、妊娠経過は全員が順調であった。

夫婦の認識:夫婦 8 組の逐語録から(A)妻の認識する満足な夫の関わり（以下、妻の認識する夫の関わり）、(B)夫の認識する妻と類似する満足な夫の関わり（以下、妻と類似する夫の関わり）、(C)夫の認識する妻と異なる満足な夫の関わり（以下、夫のみ認識する夫の関わり）を夫婦ごとに分類した。その後、(A)(B)(C)に分析した結果、最終的に初期は(A)(B)(C)いずれも 6 カテゴリー、中期、後期はいずれも 4 カテゴリーに集約された。初期の(A)妻の認識する夫の関わりで、カテゴリーを構成する記録単位が最も高いのは「妻の健康への気遣い」(28.9%)、(B)妻と類似する夫の関わりは「家事労働の援助」(26.3%)、(C)夫のみ認識する夫の関わりは「妻の健康への気遣い」(34.2%)であった。中期は、(A)妻の認識する夫の関わり、(B)妻と類似する夫の関わりともに「胎児への関心」(31.1%,37.5%)、(C)夫のみ認識する夫の関わりは「妻の健康への気づかい」(43.6%)であった。後期は、(A)妻の認識する夫の関わり、(B)妻と類似する夫の関わり、(C)夫のみ認識する夫の関わりは、それぞれ「子どもを迎える準備と話し合い」(32.6%,29.9%,60.0%)であった。

③　考察

初期では、妻は「家事労働の援助」を満足と認識しやすく、夫のみ認識している「妻の健康への気づかい」もあり、夫婦の認識の差異が認められた。しかし、中期には「胎児への関心」、後期には「子どもを迎えるための準備と話し合い」において妻の満足感が高まり、夫婦の認識に共通性が認められた。妊娠期の夫婦は、子どもを持つという共通の目標に向かって夫婦の親密性を高めながら相互に理解し合い、親になる準備を始めていたと考えられる。

④　結論

妊娠各期の妻が満足と感じる夫の関わりにおける夫婦の認識において共通性および差異が認められた。また、妊娠経過に応じて子どもを持つという夫婦の認識の共通性が認められ、妻の満足感は高まることが明らかにされた。

（２）「夫婦が認識する妊娠期の妻への夫の関わり尺度の作成」

（１）「夫婦の面接調査による妻が満足と感じる夫の関わりの抽出」では、面接調査において、妊娠期における妻が満足と感じる夫の関わりにおける夫婦の認識について内容分析をした。その結果をもとに、夫婦が認識する妊娠期の妻への夫の関わり尺度の項目を選定し検討する。

①方法

対象者は、関東近郊の総合病院（5 ヶ所）、産科医院（4 ヶ所）の妊婦健診に来院した第１子妊娠期の夫婦 760 組である。調査期間は、平成 21 年 6 月～平成 21 年 11 月に実施された。調査は群馬大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。倫理的配慮として、研究目的と内容、匿名性、途中辞退が可能なことを明記した依頼書を調査用紙に添付し、研究への協力は任意であり、協力の有無では不利益はないこと、プライバシーの保護、データは研究以外には使用しないことなどを保証した。研究参加については、回収箱を設置し、回収をもって同意とみなした。

調査内容の質問紙の構成は、（１）の「妻が満足と感じる夫の関わりにおける夫婦の認識」に関する研究を基に作成した尺度原案及び属性である。評価は、5 段階評定で、得点が高いほど妻は夫の関わりに満足している（あるいは、夫は妻が夫自身の関わりに満足していると思う）ことを示す。

研究対象は、夫婦どちらか一方のみの回答と記入漏れを削除し、有効回答数は、419 票（55.0%）であった。対象者の年齢は、妻 17～43 歳、平均年齢 29.9 歳、夫 17～46 歳、平均年齢 31.8 歳であった。妊娠時期は、妊娠初期 147 名（平均 13.1 週）、中期 103 名（平均 23.2 週）、後期 169 名（平均 33.2 週）であった。

②結果

項目の絞り込み　共通項目に妊娠各期（初期、中期、後期）の項目を組み合わせ、夫婦それぞれに分析を行った。共通 33 項目＋①初期 7 項目（計 40 項目）、②中期 13 項目（計 46 項目）、③後期 18 項目（計 51 項目）について、平均点 1.5 以下及び 4.5 以上は分布の偏りがあるとして削除した。また、IT 相関.4 未満、因子負荷量.4 未満を削除の条件として設定した。条件を満たす項目について因子分析（主因子法、プロマックス回転）を行った結果、固有値 1 以上で項目の安定した以下、①初期項目：妻 3 因子 14 項目、夫 2 因子 17 項目、②中期項目：妻 3 因子 21 項目、夫 3 因子 20 項目、③後期項目:妻 3 因子 25 項目、夫 3 因子 17 項目が抽出された。

③結論

「夫婦が認識する妊娠期の妻への夫の関

わり尺度」を作成し、妊娠各期における夫婦の認識において因子構造の違いが明らかになった。

４．研究成果

妊娠各期の妻が満足と感じる夫の関わりにおける夫婦の認識において差異及び共通点が認められた。また、「夫婦が認識する妊娠期の妻への夫の関わり尺度」を作成し、妊娠各期における夫婦の認識において因子構造の違いが明らかになった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

① 中島久美子、常盤洋子、妊娠期の妻への夫の関わりと夫婦関係に関する研究の現状と課題、群馬保健学紀要Vol.29、査読有、2009、pp.111-119

〔学会発表〕（計４件）

① 中島久美子、他4名、妊娠各期における妊婦が期待する夫の関わりにおける夫婦の認識、第50回日本母性衛生学会学術集会、2009.9.27-28、パシフィコ横浜（神奈川）

② 中島久美子、他4名、妊娠各期の妊婦が満足と感じる夫の行為における夫婦の認識、第23回日本助産学会学術集会、2009.3.21-22日、船堀タワーホール（東京都）

③ 中島久美子、他4名、妊娠初期の妊婦が満足と感じる夫の言動や態度における夫婦の認識の差異、第49回日本母性衛生学会学術集会、2008.11.6-7、シェラトンホテル（千葉県）

④ 荒井洋子、中島久美子、他3名、妊娠初期の妊婦が期待する夫の言動や態度及び妊娠による夫の変化における夫婦の認識の差異、第49回日本母性衛生学会学術集会、2008.11.6-7、シェラトンホテル（千葉県）

６．研究組織

(1)研究代表者
中島　久美子（NAKAJIMA KUMIKO）
群馬大学・医学部・助教
研究者番号：５０３３４１０７

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：